

2019年(令和元年)

11/14 木

第21087号

日刊(土曜・日曜・祝日休刊)

# 日本海事新聞

THE JAPAN MARITIME DAILY

物流情報システムのクラウドサービスなどを手掛けるエクサス(神戸市中央区、柚田良隆社長)は、NPO法人ASP・SaaS・IoTクラウドコンソーシアム(ASPIC)の「第13回ASPIC IoT・AI・クラウドアワード2019」のASP(アプリケーション・サービス・プロバイダー)・SaaS(ソフトウェア・アズ・ア・サービス)部門社会業界特化系分野で「ベスト連携賞」と「ASPIC会長賞」を受賞した。

ベスト連携賞は2年連続で受賞した。受賞対象は同社の「港湾物流事業者向けeForwarder+NVOCCクラウドサービス」。海貨業者向けeForwarderは輸出入、その他作業の業務データから請求、下払い、実績統計、経理までの各処理を一元的につなぐシステムだ。

NVOCC(海上利用運送)事業者向けのNVOCCクラウドサービスは、輸出入業務から海外パートナーとの清算業務まで一貫したNVOCC業務を支援する。

エクサス

物流情報システム

ACL情報変換

「IoT・AI・クラウドアワード」W受賞



「ベスト連携賞」は2年連続で受賞

ASPIC会長賞の対象は、「ACLtoEDIFACT(ACLフォーマットEDIFACT変換システム)」。BL(船荷証券)作成に必要なNACC S(輸出入・港湾情報処理システム)のACLフォーマットデータをエクサスのサーバーで受信し、EDI(電子データ交換)世界標準のEDIFACTフォーマットデータに自動変換して送信するサービスとなっている。

8日に都内で開かれた表彰式には柚田社長らが出席。柚田社長は「港湾物流業界でも、クラウドサービスはますます必要になってくると考えられる。今後も業界のシステム化に貢献できるよう、機能を充実させていきたい」と抱負を述べた。

ASPICは国とも連携し、ASP・SaaS・クラウドの普及促進、安全・安心の推進に取り組んでいる。アワードは国内で優秀なクラウドサービスや、モノがネットにつながるIoT、AI(人工知能)のサービスとデータセンターなどを表彰するもので、総務省などが後援している。